

PVAJ
第4号

PVAJニュース



発行：NPOアジアの誇り・プレアビビア日本協会 事務局 東京都千代田区神田駿河台2丁目4番4号 明治書房ビル2-B 電話：03-5259-5070 FAX：03-5259-5073

設立：2009年4月
カンボジア王国プレアビビア寺院世界文化遺産保全保護活動 現地レポート

エコビレッジ地区

日本政府外務省NGO連携支援事業が完了

農業溜池完成

二〇二〇年三月から開始されたエコビレッジ地区農業強化溜池建設事業が二〇二一年九月二十四日に完成し、現地待望の乾季作付が可能になりました。

エコビレッジ地区には ますが、十二月から三月約八〇〇軒の農家があり までの乾季には雨が少なく作物が育ちません。その

のため収入が途絶え農家の多くは近隣の集落やタイに出稼ぎに行き生計を保っていました。このため乾季の水資源確保が各農家の念願で、その達成は貧困脱出の要でした。

農業収穫拡大



完成した溜池三基（容量6,000m³）40m×50m深さ4m

そこで、協会は地元有志と協議の上、日本政府外務省が実施する「平成三年度NGO連携無償資金協力事業」に応募して現地に農業溜池一八、〇〇〇トンの建設と二・五kmの配水パイプの敷設を実施しました。溜池竣工後二〇二一年三月から地元二十一軒の農家により試験作付が開始され、早速に五月末には収穫につながり近隣マーケット



水供給が行われ豊かな収穫

水利組合の結成と溜池共同管理

に出荷されました。二〇二一年十一月からは乾季作付けも始まり、期待以上の成果となっております。

今後に期待されます。これらの成果を確認して試験区域近隣の農家から試験区域拡大の依頼が寄せられており、次年度以降には配水パイプの拡張で対応可能な範囲までの拡大を計画する事としております。また、さらに広範囲には、地域の農家の方々と相談しながら、第二期の灌漑事業を計画し、N連事業としての申請も協議しております。

●大使館での事業視察●

N連事業の施設建設完了後、駐カンボジア日本大使館から担当書記官や協力員に現地を訪問いただき、設備の完成確認をいただきました。

現地メンバーによる案内説明と溜池、周辺整備、給水タンク、ソーラーポンプ施設、セキュリティ施設などを確認して頂きました。

溜池の確認におきまして非常用洪水対策を設ける事の指摘があり、各溜

池とも排水パイプを満水位位置に設ける事となりました。



現地は収穫の喜び

想定以上の収穫

二〇二二年三月に始まった灌漑施設を使った農業が植え付け後三カ月で収穫を迎えます。現地では、耕作に向け各農家に、

（一）希望する種、（二）水を蓄える水瓶、（三）有機肥料、（四）防虫ネットが配布され作付に取組みました。



作付推移（上左：三月、上右：四月、中左六月、中右：九月、下左：一月、下右：二月）

今回の作付けでは、これまで以上に近隣で作付けさ



作付用水瓶、有機肥料、防虫ネット

れていた主要五種類の作物に加え、十一種類の野菜の作付けを進めました。種蒔き後三カ月で収穫となります。第一回の収穫は五月末で空心菜が収穫されスフエムのマーケットに出荷され販売されました。その後も順次収穫を継続しましたが、現地はコロナによるマーケット封鎖の影響を受け販売にはつながりませんでした。

水利利用組合設立

二〇二二年二月一六日に農家とのミーティングを開催し、水利利用ルールの確認と水利利用組合の設立に合意しました。これにより、試験耕作に参加する二十一農家は一立法メートルあたり水使用料五百リエル（約〇・一\$、一三・五円）を支払

た。しかし収穫野菜は近隣住民に提供され、コロナ災害下の困窮生活を支援する結果となりました。八月以後は雨季も最盛期となり、作付畑は水浸しで作付も難しく一〇月末まで収穫は縮小されました。そして、十一月、乾季が始まるとともに栽培は開始され、蓄えられた溜池の水を用いて、作付物は成長を続けております。乾燥の乾季に待望の緑豊かな畑が出現しました。

い乾季の水利施設の利用が可能となりました。二月中に農家の希望する十一種類の種を準備し、防虫用のネット、有機肥料、各畑に二二〇ℓの水瓶を準備し三月から試験耕作を開始しました。

今回の試験作付けには、エコビレッジの二十一農

カンボジア王国 エコビレッジ地区 農業用水の利用規則

以下の農業用水利用チームのメンバーは、以下の使用リテラシーに従って、全チームで同意しました。

- 1.給水システムの保守および修理のために、1立方メートルあたり500リエルを支払う
- 2.水は、農業目的のみに利用し、節水を心がけて利用する。
- 3.農業は環境を大切に、有機農業を奨励する
- 4.農期間、設備を使用するために、水システムの維持管理に協力して参加する
- 5.水使用に関連する各種課題に対処するために、毎月の定期グループ会議を開催する
- 6.農業技術と販売マーケティングをチームで協力して実施する
- 7.水利用チームは、Amdit 氏をリーダーとして、Mao Sopheak 氏、Mean Samu 氏、ChimNang 氏を水利用グループのサブグループ代表とします。
- 8.チームメンバーは、チームメンバー表に基づき、収穫を待て3か月毎に水使用料を支払うことに同意します。

以上

2021年2月15日

試験参加農家21軒の所在地



試験参加農家21軒の所在地



試験参加農家敷地航空写真

試験作付参加農家

家が参加しています。計画を立案した二〇一七年当時には五〇軒の農家が

あり、皆さんの参加を予定していましたが、試験を開始した時点では二十一軒に減少してまいりました。各農家の方々は入植前には農業の経験も少なく、土作り、水の大切さ、肥料の重要性、種の選定などの知識もなく試行錯誤で農業を目指していました。しかし試験が進むにつれ、収穫を目にした周辺の農家の方々は参加を希望されるようになりました。

この先ぜひとも皆様のアイデア、知見、ご指導をお願いします。現地農業を、さらに発展させたいと思います。

緑の募金 募金・寄付する 個人の方 企業の方

SDGs貢献使途限定募金による応援プロジェクト

ホーム > SDGs貢献使途限定募金による応援プロジェクト > 世界文化遺産プレアビヒア寺院地域の森創り



募金達成額 2月7日現在 0円

募金目標額 750,000円

(募金期限 2022年5月31日)

応援する

SDGs貢献使途限定募金による応援プロジェクト

- ・住民参加の山水回復とレジリエンス向上
- ・キャンプ場再生プロジェクト
- ・災害に強いめぐりの森づくりを次世代へ繋ぐ～官民連携プロジェクト～
- ・炭焼き体験を通じた里山の資源循環を学ぶ場づくり

世界文化遺産プレアビヒア寺院地域の森創り

シェア ツイート LINEで見る

sdgs5.ジェンダー平等を実現しよう sdgs11.住み続けられるまちづくりを

sdgs13.気候変動に具体的な対策を sdgs15.陸の豊かさも守ろう

sdgs17.パートナーシップで目標を達成しよう

プロジェクトNo.sdg3-0403

プロジェクト概要

<https://www.green.or.jp/bokin/crowdfunding/sdgs3-0403>

緑の募金クラウドファンディング 緑の募金プロジェクトへの応募

SDGs 使途限定募金

（公社）国土緑化推進機構・緑の募金・SDGs 貢献使途限定募金による応援プロジェクト「世界募金が二月一日に開始さ

れました。

◇期間：二〇二二年二月一日～五月三十一日

◇目標寄付額：総事業費の五十％、七五〇千円

◇約三千本の木をエコビレッジ地区の「美しい森創り」を通じて実現。

◇目標〇五：ジェンダーの平等性：小中学生の植樹参加者の半数以上を女学生。

◇目標十一：持続可能なまちと地域社会：故郷づくりを実践し持続可能な地域づくりを体験。

◇目標十三：気候変動への対策：植樹を通して環境保護意識を獲得し気候変動対策を実感。

◇目標十五：陸のいのちを守る：苗木の枯死防止を通じ命の大切さ

を身に着ける

◇目標十七：目標のために協力すること：住民、子供達、日本が協力して活動し地域の未来を描けることを実感。

世界遺産の街に足跡を残そう

皆様方のご支援や周辺の方々、企業や関係者の皆様にも参加をご案内ください。ぜひとも世界遺産の街に足跡を記録してください。参加記録は現地施設に記録されます。いつ尋ねても、そこにある活動が残ります。

緑の募金への寄付は公益法人への寄付となりますので、法人税、所得税及び個人住民税の優遇措置の対象となります。また寄付金の額に応じて農林水産大臣、林野庁長官、国土緑化推進機構理事長からの感謝状が贈呈されます。カンボジアの世界遺産の街に未来にわ

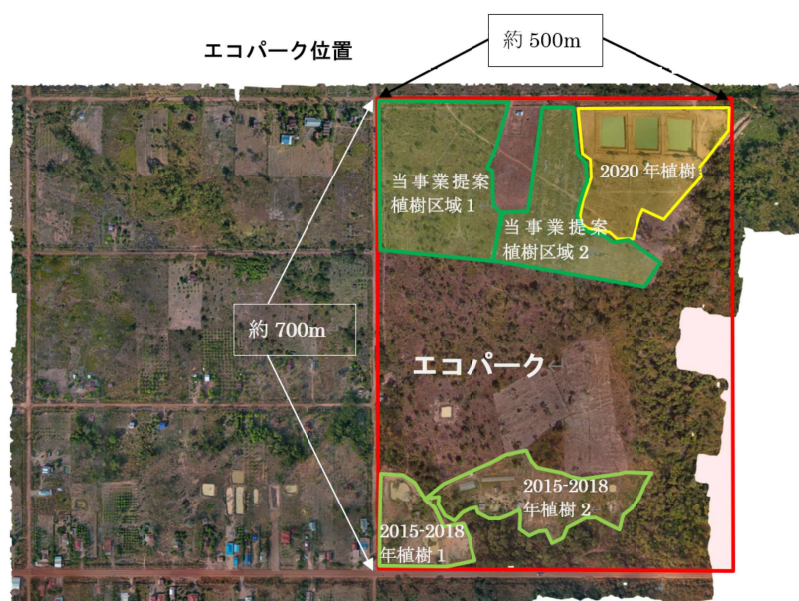


植樹活動の子供達
(エコビレッジの学校にて)

植樹への参加を支援します

たる足跡を残しましょう。

森創り事業は二〇二二年七月から始まります。皆様の参加をお待ちしております。プロジェクトが成立しましたらカンボジア入国後は現地までの移動、宿泊など、準備いたします。現地の元気な子供達と、村人と共に森創りを行い、未来の記念を残してください。



「世界文化遺産プレアビヒア寺院地域の森創り」プロジェクト図